広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会　感染症解析評価部会]
（平成１５年１月解析分）

１　疾患別定点情報

定点把握（週報）四類感染症　　平成14年12月分(12月2日～12月29日：4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
1	インフルエンザ	4,823	10.13	0.41	↑	12	麻疹	3	0.01	0.03	
2	咽頭結膜熱	52	0.17	0.09	↗	13	流行性耳下腺炎	227	0.76	0.95	⇗
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	306	1.02	－	⇨	14	急性出血性結膜炎	5	0.06	0.05	
4	感染性胃腸炎	3,752	12.51	10.52	⇨	15	流行性角結膜炎	81	1.01	1.02	⇨
5	水痘	597	1.99	2.29	⇗	16	急性脳炎	2	0.02	－	
6	手足口病	172	0.57	0.35	⇗	17	細菌性髄膜炎	4	－	0.00	
7	伝染性紅斑	14	0.05	0.16	⇨	18	無菌性髄膜炎	5	0.06	0.23	
8	突発性発疹	211	0.70	0.66	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	13	0.15	－	⇨
9	百日咳	8	0.03	0.02		20	クラミジア肺炎	0	－	－	
10	風疹	7	0.02	0.05		21	成人麻疹	0	－	－	
11	ヘルパンギーナ	9	0.03	0.03							

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇗	⇨
↓	↘	⇘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減	殆ど増減なし（発生件数少数のものを含む）

※定点について
　定点情報は，定点把握対象の四類感染症（週報対象 21 疾患，月報対象 7 疾患）について，県内 187 の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1～13	14，15	22～25	16～21，26～28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は，「http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html」のホームページに掲載しています。
全国情報については，「http://idsc.nih.go.jp」に掲載されています。
インフルエンザホームページについては，「http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp」に掲載されています。

定点把握（月報）四類感染症　　平成14年12月分（12月1日～12月31日）

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去５年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	52	1.93	1.92	⇨	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	82	3.90	－	⇘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	13	0.48	0.55	⇘	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	91	4.33	－	⇗
24	尖圭コンジローム	17	0.63	0.25	⇗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	7	0.33	－	
25	淋菌感染症	26	0.96	1.02	⇨						

※「過去５年平均」：過去５年間の同時期平均（定点当り）

○ インフルエンザ　急増（11月62件⇒12月4,823件）

2　一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

○ 一類感染症，二類感染症　　発生なし
○ 三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）　　5件発生
（広島地域保健所管内 O157 1件，広島市 O26 3件・O157 1件）
○ 全数把握四類感染症　　14件発生　（急性ウイルス性肝炎 5件（A型 3件，B型 2件），
ツツガムシ病 6件，梅毒 1件，破傷風 1件，レジオネラ症 1件）

3　一般情報

○　インフルエンザの予防について

今シーズンは例年より早くインフルエンザが流行しています。

県内119の医療機関からの報告（感染症発生動向調査）による今シーズンの患者数（平成14年9月30日～平成15年1月5日）は，6,714人と昨シーズン同時期の90人，一昨シーズン同時期の109人，3年前同時期の1,524人と比べて大幅に増加しています。

例年の流行のピークが1月末から2月初めであることから，さらに流行が拡大する可能性もあるため，注意が必要です。

〈参考〉“ インフルエンザはかぜじゃない ”

普通の風邪はライノウイルスや，コロナウイルスなどの感染によって起こり，のどの痛みや鼻水，くしゃみや咳，軽い発熱が中心で，全身症状はあまり見られません。

一方，インフルエンザはインフルエンザウイルスの感染によって起こり，かぜの症状に加え，急激な発熱（38～39 度以上）や頭痛，腰痛や筋肉痛，体のだるさなど全身の症状が強く現れます。また，高齢者などは肺炎などを併発し，重症化する場合があり，近年は，幼児がまれに急性脳症を併発して死亡するといった問題も指摘されています。

４　平成１４年の感染症発生状況

・エボラ出血熱などの一類感染症の発生はありません。

・二類感染症の発生状況は次のとおりです。
　細菌性赤痢　９人　広島市，呉市，福山市，東広島市，大竹市，安芸郡の１４～７３歳までの合計９人（男６人，女３人）の方が細菌性赤痢にかかっています。
　東南アジアなど海外由来によるものが 5人，海外渡航歴のない方が 4人でした。
　安芸郡在住の１０才代女性が腸チフスにかかり，発熱の症状で１０日間入院しました。
　また，尾道市在住の４０才代男性がパラチフスにかかり，発熱の症状で１４日間入院しました。
　コレラ，ジフテリア，ポリオの発生はありませんでした。
　なお，全国の発生状況は，コレラ５１人　細菌性赤痢６９３人　腸チフス６２人　パラチフス３３人　ジフテリア０人　ポリオ０人でした。

・三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）は，６月及び９月の９人をピークに３月を除き，毎月発生しました。
　県内で３２件５５人（全国３，１３２人）の患者が出ており，血清型別ではＯ１５７　１９人，Ｏ２６　３２人，Ｏ１１１　４人，地域別では，広島市１７人，呉市４人，福山市８人，県立保健所管内２６人（庄原市８人，安芸郡４人等）となっています。
　昨年（平成１３年　広島県５５件９３人，全国４，２７９人）と比較して，県内，全国ともに減少しています。
　また，ＨＵＳ（溶血性尿毒症症候群）を併発した方が１人（２才女児）おられましたが，既に回復されています。